

愛媛の救急医療を守る147万人の県民運動

あい きゅう いち・よん・なな うん どう
(愛救147運動)

平成21年度



土谷ちゃん

マリンナ

赤ちゃん

山嵐

たぬき

母子たいてい

つらなり

愛媛の医療を守る 『7人のDr.』

県内の救急医療の受診実態

【二次救急医療機関での救急患者受入実態調査(平成21年度)】

1. 調査依頼先 県内の全ての救急告示医療機関(59機関) 回収率 100%
2. 対象患者 診療時間内の救急車での搬送患者、診療時間外の全ての患者
3. 調査期間 平成21年11月1日～11月30日(30日間)
(平成20年度からの3年間、毎年11月に実施)

4. 調査項目

受診の時間帯(2時間単位)

受診者の属性(年齢、性別、住所)

来院形態 (救急搬送、自力:walk-in、転院搬送 他)

主な受診科

主な傷病 傷病大分類による区分

症状の程度(消防統計と同様の区分)

- ・特に軽症 … 通院加療を要しないもの
- ・軽症 … 入院を要しないが通院加療を要するもの
- ・中等症 … 生命の危険はないが入院を要するもの
- ・重症 … 生命の危険の可能性のあるもの
- ・重篤 … 生命の危険が切迫しているもの
- ・死亡 … 初診時死亡が確認されたもの



たかちゃん

【医療圏別の患者受入状況】

県内受入患者総数 … 21,205人(H21.11 1ヶ月間)

医療圏	宇摩	新居浜 ・西条	今治	松山	八幡浜 ・大洲	宇和島	計
患者数	1,418	2,977	2,977	8,726	1,772	3,368	21,205
構成比	6.7	14.0	13.9	41.2	8.4	15.9	100.0
救急告示病院	4	11	13	17	9	5	59
患者数/病院 (A)	355	271	226	513	197	674	359
(A) 大洲・八幡浜を 1とした場合	1.80	1.37	1.15	2.61	1.00	3.42	

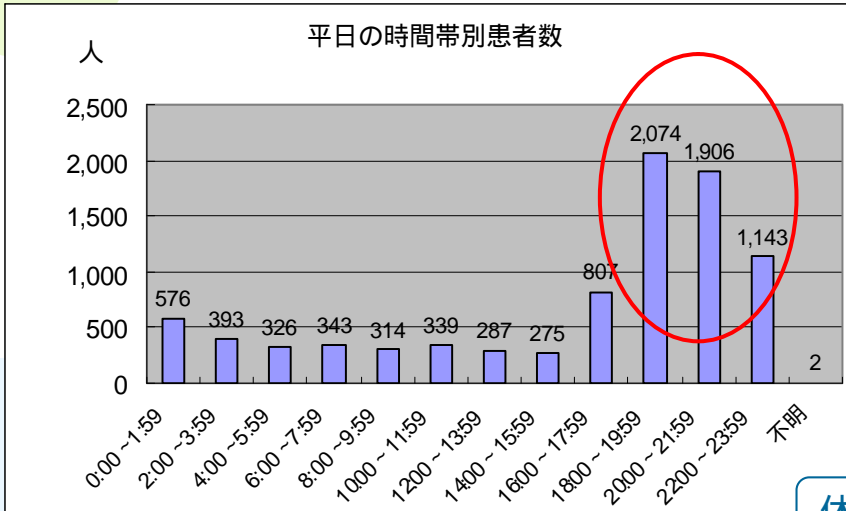
- 医療圏別では、「松山医療圏」の患者数が最も多く、全体の4割強を占めている。
- また、救急告示病院当たりの平均患者数では「宇和島医療圏」が最も多く、次いで、「松山医療圏」、「宇摩医療圏」の順となっており、単純比較すると「宇和島医療圏」と最も少ない「八幡浜・大洲医療圏」との間で約3.4倍の差がある。



赤ちゃん

【時間帯別患者数】

平日・時間外は午後6時～8時の患者が最多



患者数8,785人

- 平日・時間外(18:00以降)の受診動向を見ると、「18:00～19:59」の時間帯の患者が最も多く、その後も深夜0時頃まで、多数の患者が来院している。

平日・日中の患者は、主として救急車による搬送患者。

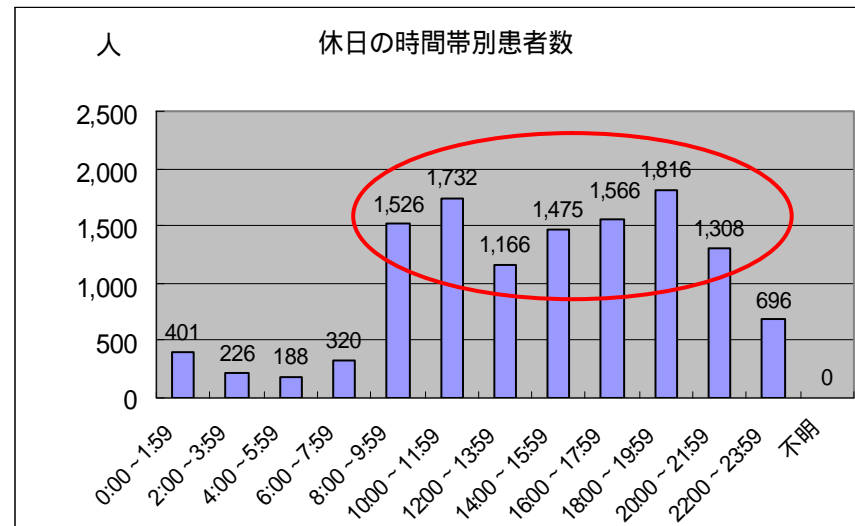


山嵐

休日は、午前8時～午後10時頃まで絶え間なく来院

患者数12,420人

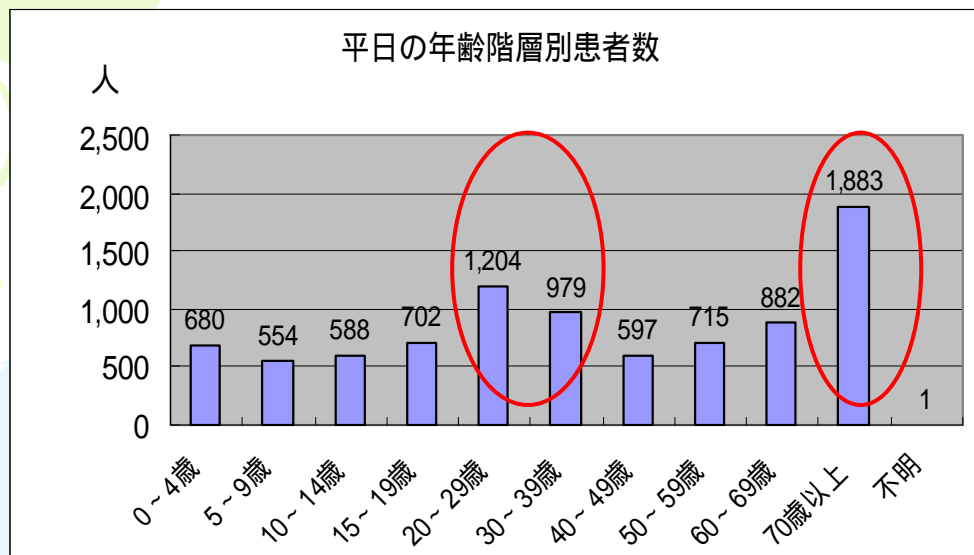
- 休日の受診動向を見ると午前8時以降、日中から夜10時頃まで、多数の患者が絶え間なく来院している。



うらなり

【年齢階層別受診動向】

平日・時間外は70歳以上の高齢者層が最多

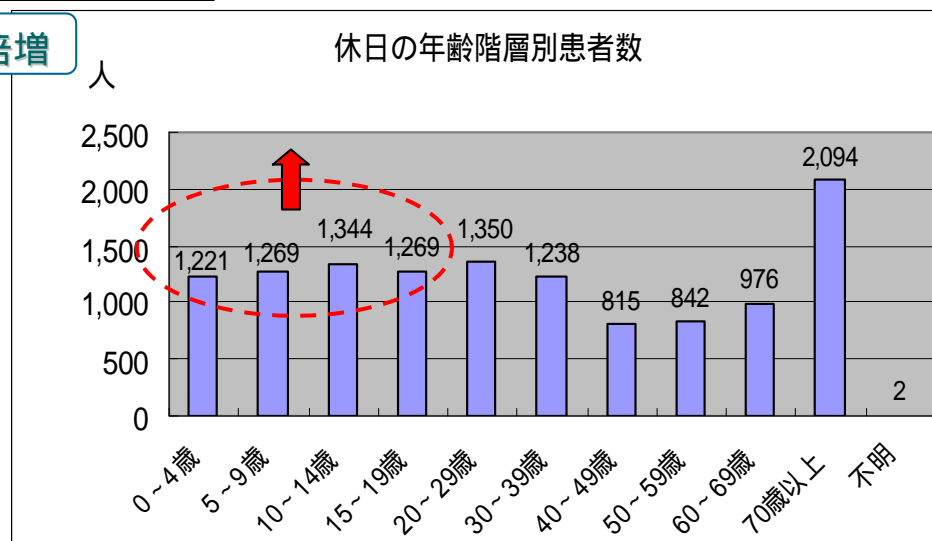


- ・ 「70歳以上」の高齢者層が21%を占め最も多い。
- ・ 次いで、「20～29歳」「30～39歳」の比較的若い勤労者層が14%、11%と続いているが、それ以外の年齢層に大きな差はない。



母子だいて

休日は、未成年者層が倍増



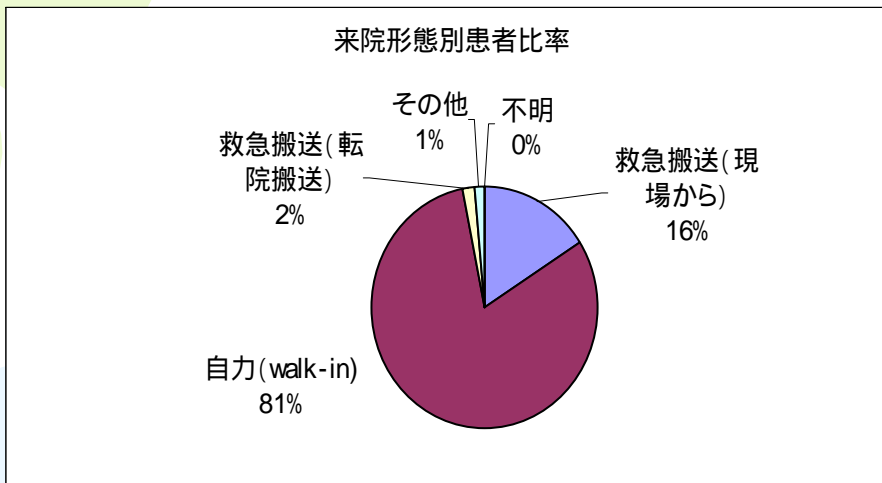
- ・ 休日も、平日同様「70歳以上」の高齢者層が最も多いが、未成年者の各層の受診患者の比率が平日(29%)と比べ高く(41%)になっている。



たぬま

【来院形態別受診動向】

自力で来院(walk-in)の患者は、救急搬送患者の4.5倍



- 自家用車等を利用し自力で来院(walk-in)する患者が、全体の8割以上を占め、救急搬送患者の4.5倍に達している。



赤ちゃん

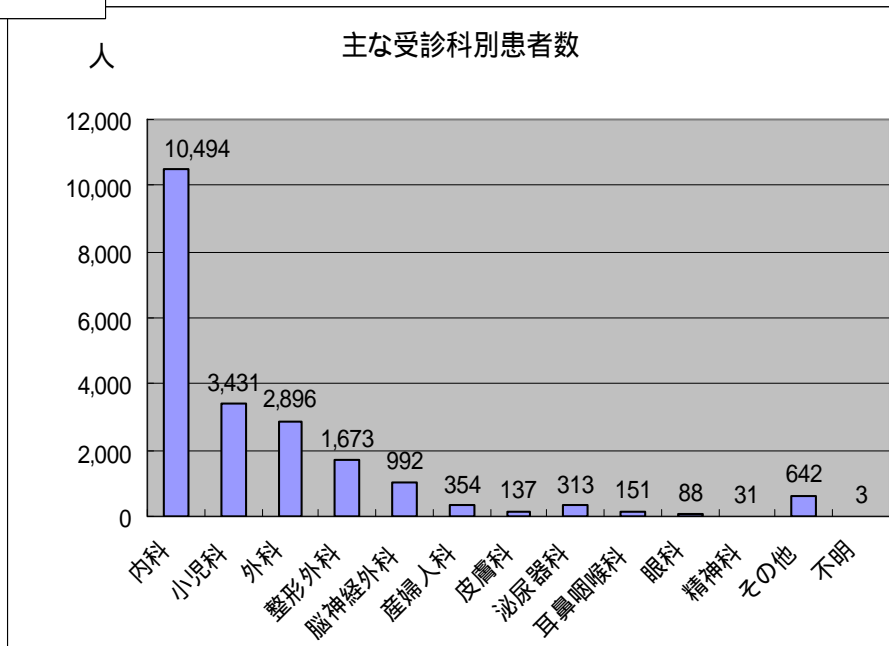
【主な受診科別患者数】

内科の受診患者が約4割



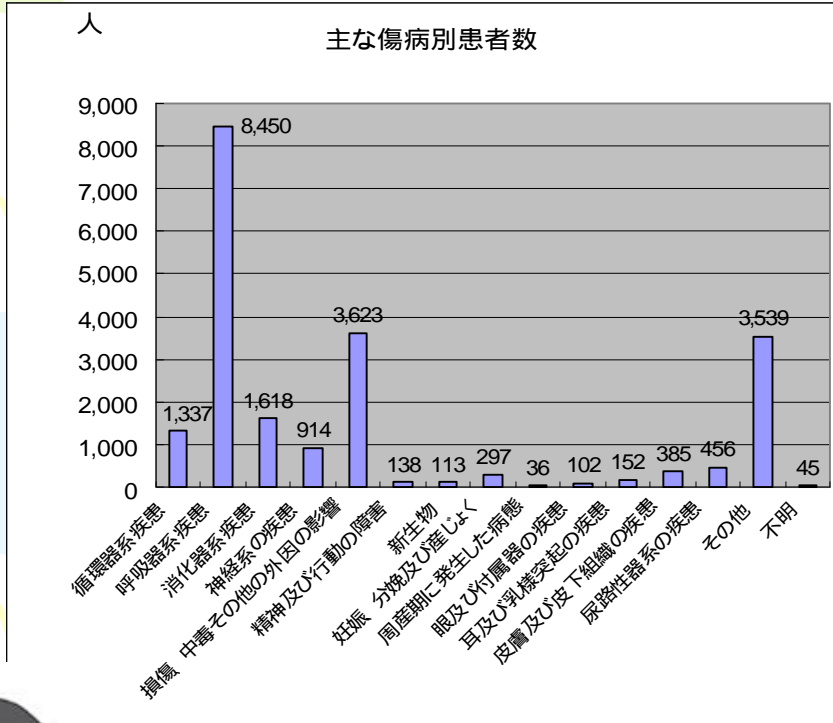
土方ちゃん

- 患者の主な受診科では「内科」が最も多く、全体の約5割(49%)を占め、以下、「小児科」、「外科」、「整形外科」の順となっている。



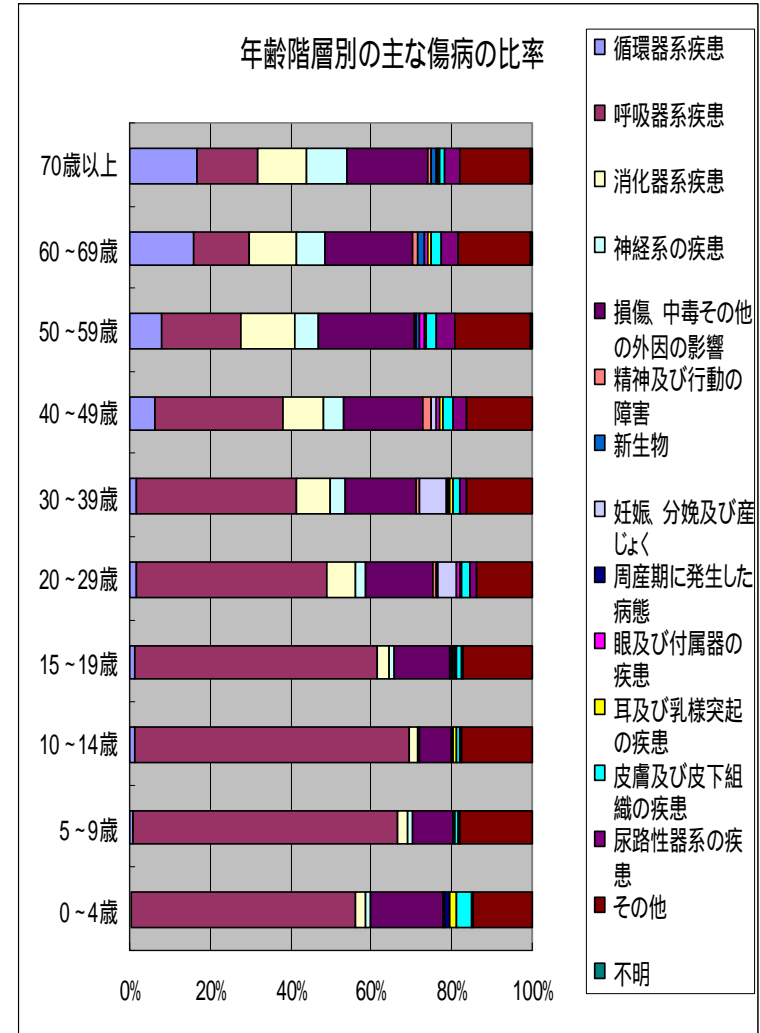
【主な傷病別患者数】

呼吸器系疾患が約4割



【年齢階層別の主な傷病】

低年齢層は呼吸器系疾患が多数



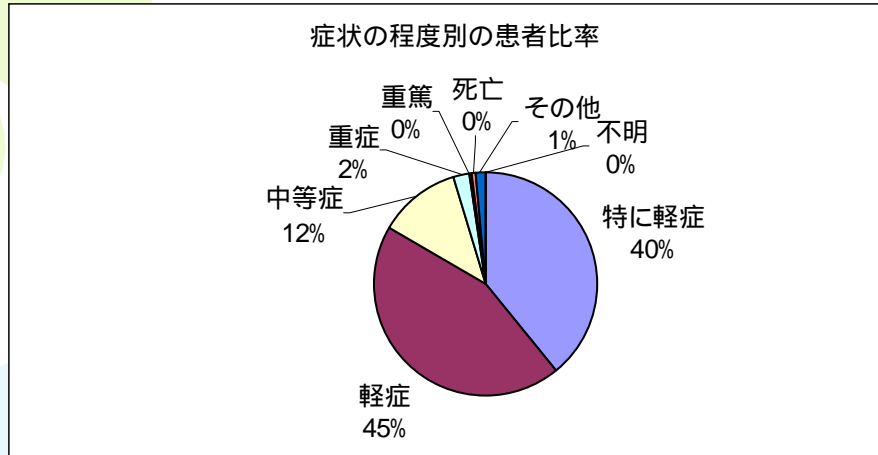
- ・ 年齢が低い階層では「呼吸器系疾患」患者の比率が比較的高い。
- ・ 40歳以上では、年齢階層が上がるにつれ、「循環器系疾患」患者の比率が増加している。



うらなり

【症状の程度別患者比率】

全体の8割以上が軽症以下の患者

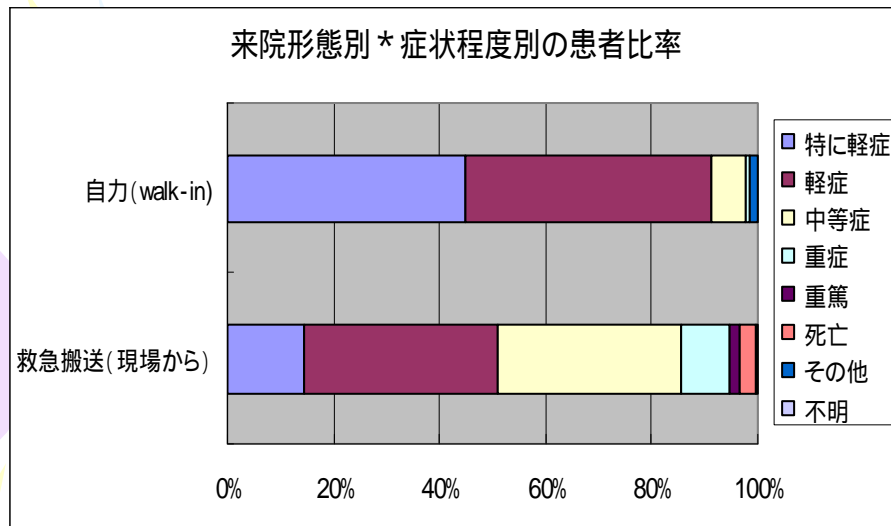


- ・ 患者の症状の程度を、『消防統計』の基準で見ると、通院加療を要しない「特に軽症」患者及び、入院を要しない「軽症」患者が全体の85%を占めている。
- ・ なお、生命の危険の可能性のある「重症」以上の患者の比率は、全体のわずか3%程度に過ぎない。

(グラフは端数処理を行っているため誤差あり)

【来院形態別 * 症状の程度別患者比率】

自力(walk-in)患者の9割が軽症以下の患者



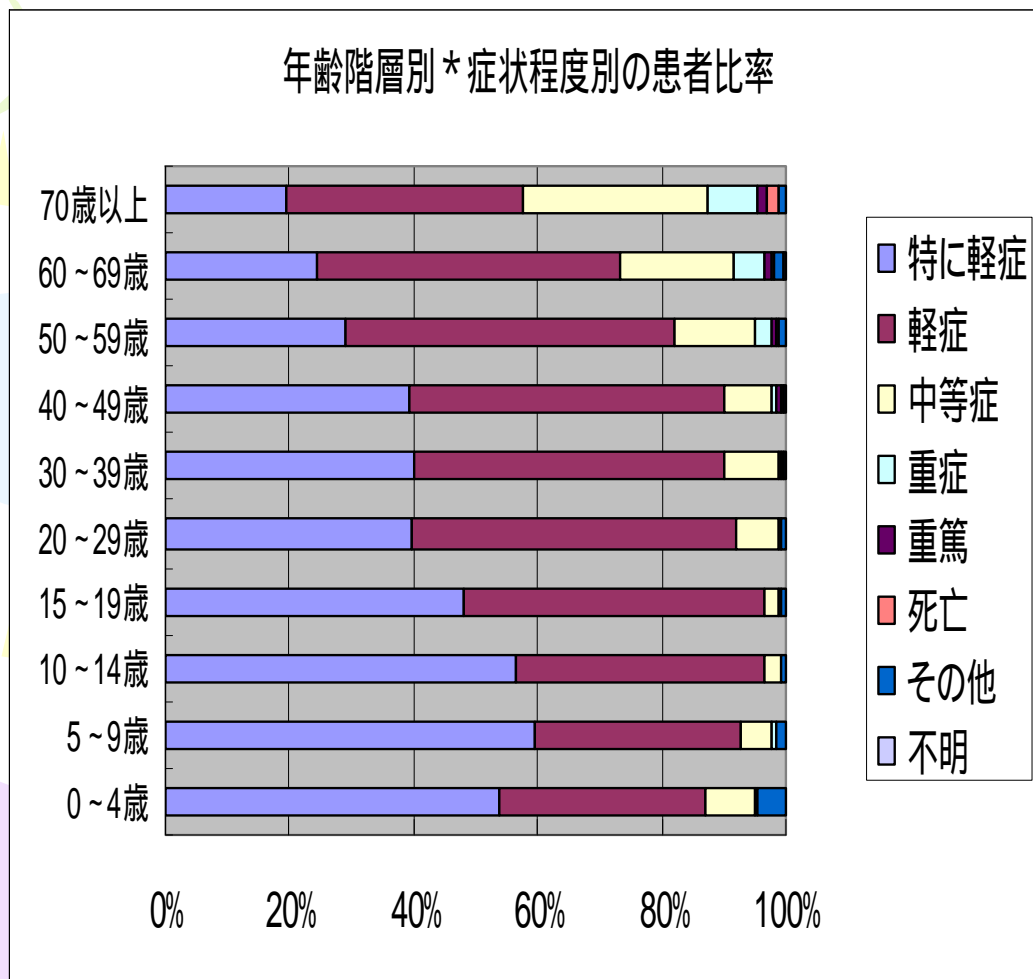
- ・ 「軽症」以下の患者の比率は、救急車で現場から搬送される場合は51%であるが、自力での来院(walk-in)の場合は9割を超えている。(91%)



たけし

【年齢階層別 * 症状の程度別患者比率】

年齢階層が低いほど、軽症以下の患者比率が高い



・ 5歳以上の年齢階層では、概ね年齢階層が低いほど、「軽症」以下の患者比率が高くなっている。
 ・ 特に、5歳から19歳までの年齢階層では、「軽症」以下の患者比率が9割を超えている。



タチャちゃん



マピンナ

【平成20年度との比較】

受入患者総数:1.3倍 (平成20年度値 16,362人)

医療圏別では、**宇摩医療圏のみ患者数が減少**しているが、その他**5医療圏で増加**している。

時間帯別患者数

曜日別、時間帯別では、平日の夕方～夜間、休日の日中に患者が集中する傾向は、20年度と同様。

年齢階層別患者数

年齢別でも、高齢者層、比較的若い勤労層の患者数が多い傾向は同様。21年度で、**5～19歳の各層において患者数の激増**と、全体的に患者数が増えている中での、**0～4歳、50～59歳、70歳以上の患者数の減少**は特徴的。

来院形態別、症状の程度別患者数

傾向は同様だが、**自力で来院(walk-in)した患者比率が74%から81%**、**軽症以下の患者比率が80%から85%**と、更に増加した。

受診科別、傷病別患者数

内科が40%から49%と増加し、**呼吸器疾患は19%から40%と激増**している。なお、21年度では、全体的に患者数が増えている中、外科、整形外科、皮膚科など12科のうち8科において患者数が減少している。

調査を実施した11月は、県内全域で**インフルエンザが流行**していたため、受診者が増加したものと
思われる。

インフルエンザで受診した場合に分類される傷病の「呼吸器系疾患」及び「その他の疾患」の患者
数を、全患者数から除いた(「**それ以外の疾患**」)患者数では、20年度と21年度の調査結果を比較し
たところ、**患者数1割、自力来院(walk-in)比率2ポイント、軽症患者比率4ポイント、それぞれ減少**
している。